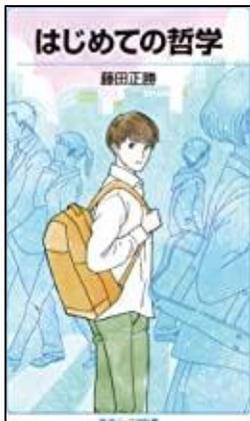


# 《論説・古典》

## 『はじめての哲学』

藤田正勝 岩波書店



「自己」「生と死」「真理」「実在」「言葉」……古代から現代まで、人間が考え挑み続けてきた根源的な問いの数々が、やさしい言葉で書かれています。哲学という難しいと思われがちですが、「当たり前」と思っていることに心を向けてみる」という視点で読んでみてください。

## 『植物のいのち～からだを守り子孫につなぐ驚きのしくみ～』

田中修 中央公論新社



植物。動かず、しゃべらず、食べず・・・。わたしたち動物とはずいぶん異なり、また動物には真似できないユニークな力を秘めている。栄養は自分で作り、体の一部が失われても復活できる。そんな植物の「いのち」の形について語られます。

## 『問う方法・考える方法』

～「探求型の学習」のために～  
河野哲也 筑摩書房



私たちは人生の中で出会う様々な課題を、見つけ、調べて、解決することが求められる時代に生きています。自分にとって、どういった人生が幸せな人生と言えるのか、そのためには今何をすべきかを考えさせられる一冊です。

## 『「利他」とは何か』

伊藤 亜紗 他4名 集英社

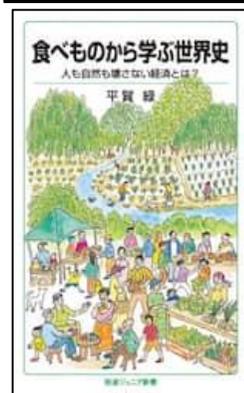


コロナ禍によって世界が危機に直面するなか、「いかにして他者と関わるのか」といった話題が多く取り上げられました。そこで「利他」という言葉も出てきました。「利他」とは何か。5人の有識者たちが、他者と共に生きるには？というテーマで語ります。

## 『食べものから学ぶ世界史』

～人も自然も壊さない経済とは？～  
平賀緑 岩波書店

蔵書○



資本主義経済とは何か？難しい話を、みんながよく知る「砂糖」の話で分かりやすく説明しています。また、地球に住む人々にとっての本当の豊かさとは何かを世界の食の歴史から語られています。食べものから経済を学ぼう！

## 『なぜ世界を知るべきなのか』

池上彰 小学館

蔵書○



コロナの影響なのか、世界を知りたい、外国に行ってみたい、と思う若者が減っているそうです。しかし、著者は内向きになることなく、世界を知ること、自分の国のことを改めて知る機会として欲しいと著者は述べています。

## 『科学は未来をひらく』

村上陽一郎 他7名 筑摩書房

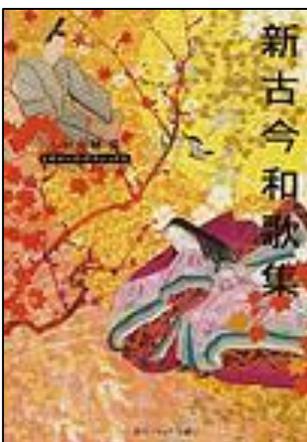
蔵書○



生命の歴史、宇宙、気象、数学、免疫、生物、人類など。それらの科学研究で第一線で活躍している著者たちが、科学の面白さを語ります。また、若者へ向けた科学の本の読書案内も載っています。

## 『新古今和歌集』

小林大輔(編) 角川学芸出版



後鳥羽院の命により編纂された第八番目の勅撰和歌集。後鳥羽院は、自ら編纂に積極的に関わり、約二千首の和歌を選定するために、その数倍の和歌が頭に入っていたという。

## 『枕草子』

清少納言 筑摩書房



平安中期に清少納言によって書かれた随筆。清少納言のきらめく感性が、平安の優雅で華やかな時代を伝えている。

論説文を読むには、「新書」がとてもおすすめです。中でも、『岩波ジュニア新書』や『ちくまプリマー新書』が中学生には読みやすいです。テーマが幅広く、自分の興味のあるテーマの新書から読むのもおすすめです。

古典は、『角川ソフィア文庫—ビギナーズ・クラシックス』がおすすめです。ふりがな付きで読める【原文】と【現代語訳】、また細やかな【解説】で構成されているので、とても読みやすいと思います。

図書室に、たくさん蔵書しているので、ぜひ読んでみてください。